

## ◆ 今週のコメント

- ・ A群溶血性レンサ球菌感染症の定点当たり報告数は、1.50(60例)で、2週連続で過去5年平均値を上回っています。年齢階級別では、1歳以上の各年齢で報告があります。
- ・ 突発性発しんの定点当たり報告数は0.65(26例)で先週より増加しています。年齢階級別では、0歳～3歳まで報告があり、6箇月～1歳が80.8%(21例)を占めています。
- ・ ヘルパンギーナの定点当たり報告数は0.63(25例)で、第21週以降、過去5年平均値を上回っています。年齢階級別では、6箇月から8歳までの報告があり、1歳が6例(24.0%)と最も多くなっています。今後、夏季の流行ピークに向けて、患者数の増加が予想されますのでご注意ください。
- ・ 咽頭結膜熱(プール熱)の定点当たり報告数が0.33(13例)で、先週(0.15)から急増しています。今後、夏季の流行ピークに向けて、患者数の増加が予想されますのでご注意ください。

## ◆ 今週のトピックス: &lt;手足口病&gt;

手足口病の定点当たり報告数は、1.33(53例)で、2週連続で急増しています。詳細をトピックスに掲載しています。

## ◆ 発生状況

## 全数把握の感染症

ありません

## 定点把握の主な感染症

(市内定点数 インフルエンザ定点67, 小児科定点40, 眼科定点10, 基幹定点1)

定点	感染症名	定点当たり報告数	報告数
インフルエンザ*	インフルエンザ	0.06	4
小児科 (降順5位まで)	① 感染性胃腸炎	4.70	188
	② A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1.50	60
	③ 手足口病	1.33	53
	④ 水痘	0.73	29
	⑤ 突発性発しん	0.65	26
眼科	流行性角結膜炎	1.00	10

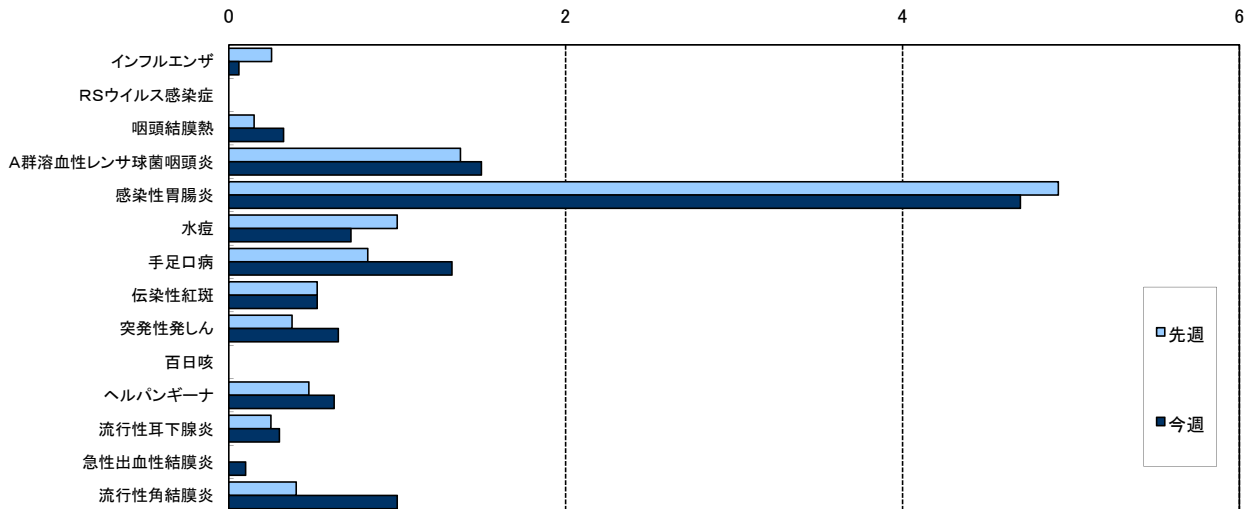
## 【次ページ以降の主な内容】

発生状況の概況グラフ / 今週のトピックス: <手足口病>

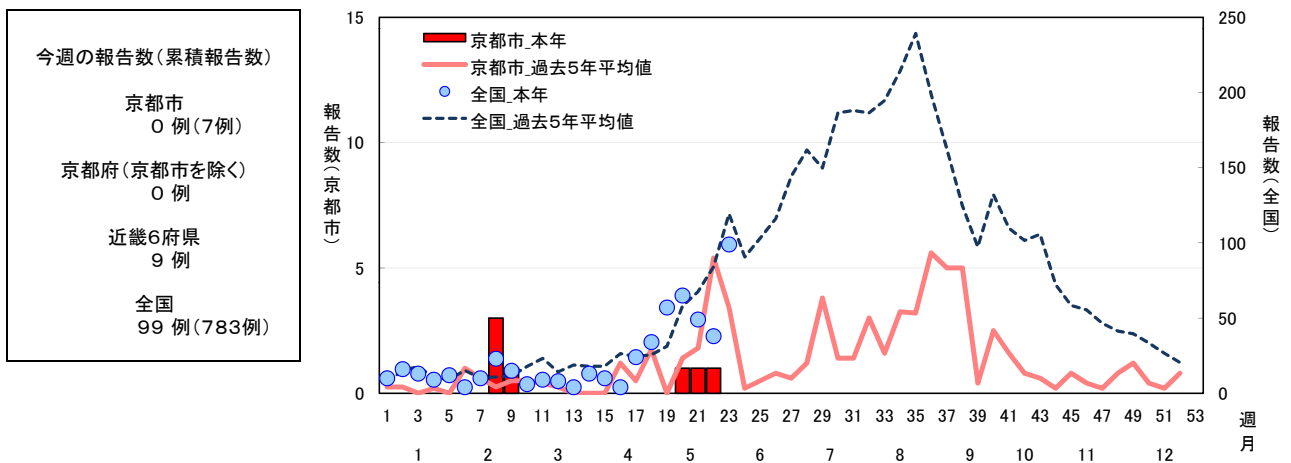
(注) 京都市のデータは、平成23年6月16日現在の報告数で、全国の還元データと若干異なる場合があります。  
また、本情報での患者数は、届出医療機関所在地での集計で、患者の住所を示すものではありません。

# ◆ 発生状況の概況グラフ

## 1 今週(第23週)と先週(第22週)の定点当たり報告数の比較

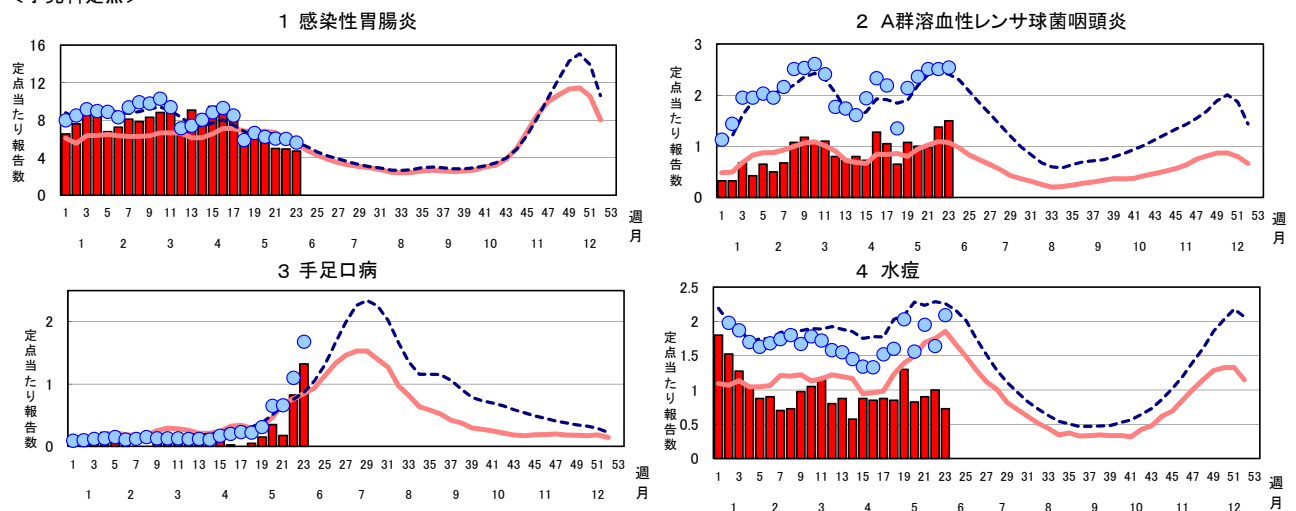


## 2 腸管出血性大腸菌感染症(三類感染症)の推移

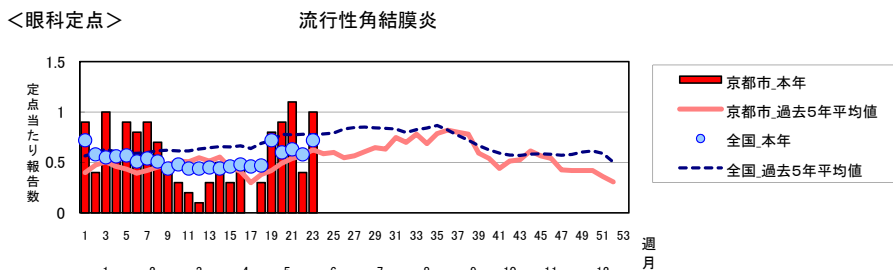


## 3 主な感染症の定点当たり報告数の推移

<小児科定点>



<眼科定点>



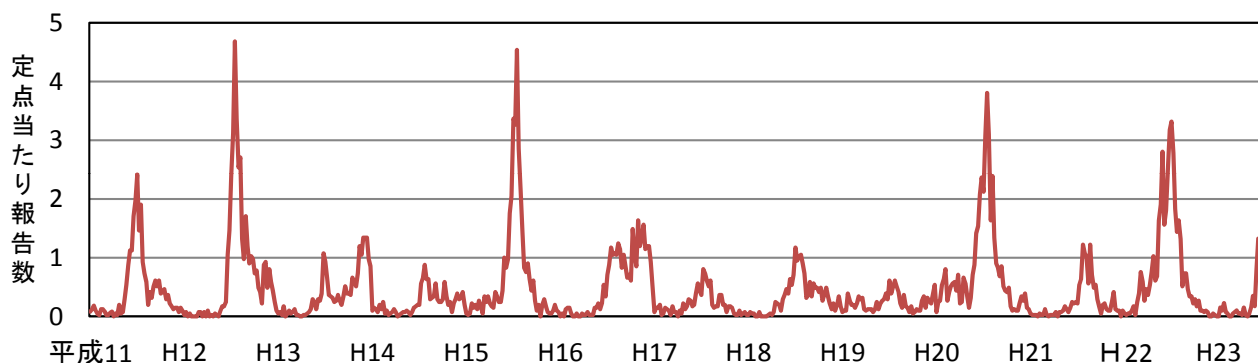
## 第23週(6月6日～6月12日)トピックス: <手足口病>

手足口病の定点当たり報告数は、1.33(53例)で、2週連続で急増し、今週、京都市、全国ともに、過去5年平均値を大きく上回りました。手足口病は、数年おきに大きく流行していますが、平成20年の後、平成22年にも大きく流行しました。夏季のピークに向け、今後、更なる患者数の増加が予想されますので、動向にご注意ください。

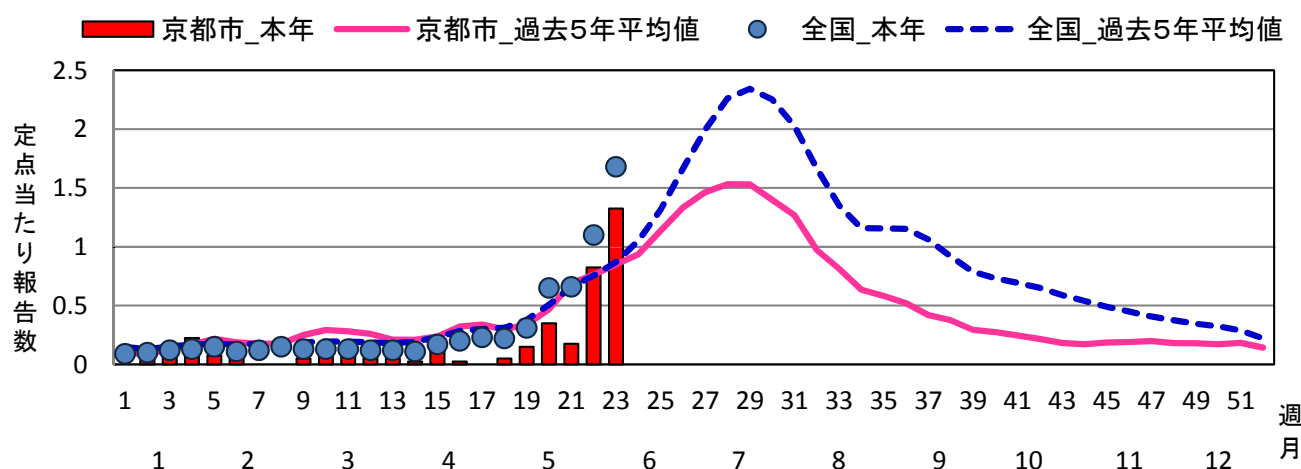
都道府県別定点当たり報告数の推移をみると、近畿地方を境に、九州、四国、中国地方等、西日本で報告数が多く、中でも、島根県、岡山県、香川県などでは、定点当たり報告数が5.0を上回っています。対して、東日本では報告数が少なくなっています。

なお、過去5年間に手足口病として京都市内病原体定点から、京都市衛生環境研究所に提出された検体49件からウイルスの検出されたものは16検体(32.7%)で、エンテロウイルス71が8検体(16.3%)、コクサッキーウイルスA群 7検体(14.3%)、コクサッキーウイルスB群 1検体(2.0%)となっています。

平成11年以降の定点当たり報告数の推移



本市及び全国の定点当たり報告数の推移



都道府県別定点当たり報告数の推移

